

令和2年

9月の重要農作業

四国中央市農業振興センター

《問い合わせ先》

四国中央農業指導班

(畜産) 東予家畜保健衛生所

TEL 23-2394

TEL (0897) 57-9122

【天気予報及び概況】

平年と同様に晴れの日が多いでしょう。気温は、高い確率50%です。

また、三島地区における過去の9月の気象状況は次のとおりです。

	平均気温 (°C)	最高気温 (°C)	最低気温 (°C)	降水量 (mm)
2017年	22.9	27.2	19.3	299.5
2018年	23.4	27.3	20.4	542.0
2019年	25.5	30.1	21.8	108.5
1981~2010年	23.9	27.8	20.6	202.4

※気温については、1ヶ月の平均値

【作物】

1 水管理

これからの管理で、最も重要なのが水管理です。根の活力維持に努め、品質の向上に努めましょう。

(1) 出穂期～出穂期以降

浅水管理 (2～3cm) をします。異常高温が続く場合は、かけ流し灌水で地温を下げ、根傷みを防ぎます。

(2) 登熟期

灌水して土壌に水分を与えたら、水は溜めずに、足跡に水がたまっている程度 (飽水状態) にします。

(3) 落水期

落水期は収穫前7日程度としますが、収穫作業に支障のない程度に刈り取り直前まで走り水灌水で土壌水分を保ちます。

2 病虫害防除

(1) 斑点米カメムシ類の発生圃場率は、平年に比べ早期で約2.5倍、普通期で約2倍となっています。防除を徹底して下さい。

スタークル顆粒水溶剤2,000倍 (収穫7日前まで) を使用する場合は、出穂後10～15日頃に散布して下さい。多発時には、1回目防除の7～10日後に追加防除をして下さい。

スタークル粒剤3kg/10a (収穫7日前まで) を使用する場合は、出穂後7～10日頃に散布して下さい。

スタークル剤は、ウンカ類・ツマグロヨコバイにも有効です。

(2) いもち病の発生が多くみられます。発生している場合は、速やかにブラシンフロアブル1,000倍 (収穫7日前まで) で応急防除をして下さい。

3 収穫準備

コンバイン、乾燥機等の点検を実施して、計画的な作業を行って下さい。

【品種別収穫適期基準】

区分	短期あきたこまち	ヒノヒカリ	にこまる
出穂後積算温度 (°C)	900～1,050	900～1,100	1,000～1,150
最長稈黄変率 (%)	85	85	85～90
出穂後日数 (日)	33～37	40～46	42～48

<松本>

【野菜】

1 さといも

(1) 病虫害防除

ア 疫病、軟腐病

9月は、孫芋の肥大並びに充実期です。台風等の強い風雨により疫病が急激に拡大すると、収量減が予想されます。

台風や長雨が予想される場合「ダイナモ顆粒水和剤2,000倍」または「アミスター20フロアブル2,000倍」を散布して下さい。

また、高温期の降雨は、軟腐病の発生を助長するため「ジーファイン水和剤」と組み合わせたローテーション防除を実施して下さい。

薬剤名	病害名	濃度	使用時期 / 回数	特徴
ダイナモ顆粒水和剤	疫病	2,000倍	収穫21日前まで / 3回	予防及び治療効果がある 高温多湿時薬害を生じる場合がある
アミスター20フロアブル	疫病	2,000倍	収穫14日前まで / 3回	予防及び治療効果がある 高温多湿時薬害を生じる場合がある
ジーファイン水和剤	軟腐病 疫病	1,000倍	収穫前日まで / -	予防効果がある 高温多湿時薬害を生じる場合がある

イ ハスモンヨトウ

発生密度を確認して、フェニックス顆粒水和剤2,000～4,000倍 (前日/2回) で防除して下さい。

(2) 出荷計画

マルチ栽培のさといもは、掘取り調査の結果等を参考にして、計画的に収穫して下さい。

(3) 追肥

露地栽培

9月上旬に「化成444」を30kg/10aを施用して下さい。また、肥料の吸収量は、次第に低下しますので過剰施肥は控えて下さい。

2 やまのいも

9月下旬までは芋の肥大期です。極端な乾燥や湿潤にあうと芋が肥大不足や2次生長を起こし形状が乱れることがあるので、水管理には最後まで注意し、土壌水分を適湿に保って下さい。

(1) 病害対策

炭そ病の発病が懸念される時期です。葉が枯れあがらないようにトップジンM水和剤等で予防散布に努めて下さい。なお、強風や大雨の後及び炭そ病発生圃場では、ラピライト水和剤400倍 (収穫14日前/4回) を散布して下さい。

(2) 害虫対策

ハダニ類による吸汁及びヨトウムシやナガイモコガ等の食害による葉面積の極端な減少は収量低下につながります。圃場を巡回し、適期防除に努めて下さい。

(3) 排水対策

大雨の際、圃場内に滞水が起こらないように排水路の点検をして下さい。

<山口>

【果樹】

1 摘果

(1) 温州みかん

着果と新梢のバランスが良く、後期摘果を実施している樹は、早生温州の着果量が多い樹から摘果を開始し、10月上旬頃を目途に普通温州までの摘果を順次、実施して下さい。

果梗枝が太く下垂しない果実、果皮が粗い果実、極小果、キズ果、内・すそ成り果を摘果し、果皮表面が滑らかな小中玉果を樹冠の表面近くに多く着果させます。思いきった摘果を行い、葉果比20～30程度に調整して下さい。着果量が少なく樹上選果で対応する樹は、10月以降に大玉果や傷果を樹上選果して下さい。

(2) 中晩柑類

小玉果、内成り・すそ成り、日焼け果、キズ果を摘果して下さい。

2 灌水

(1) 温州みかん

葉の巻き具合 (葉の萎凋が朝になっても戻らない)、旧葉の落葉状況等をみながら、7～10日間隔で10～20mm (10～20t/10a) を目安に灌水して、適度な水分ストレスを維持します。

(2) 中晩柑類

高温、土壌乾燥が続けば7～10日間隔で20～30mm (20～30t/10a) を目安に灌水を行って下さい。

<守屋>

【花き・花木】

1 アネモネの本圃の準備

(1) 土壌消毒の実施

排水・保水性が良く、日当たり・風通しの良いほ場を選定します。

バスアミド微粒剤20～30kg/10aを均一に散布して土壌と混和します。散水後、すぐにビニール被覆し、10～14日後にガス抜きを行います。

(2) 苦土石灰と元肥の施用: 苦土石灰100～120kg/10a、スーパーエコロング413 (70kg/10a)、ようりん60kg/10aを施用します。

(3) 畦立て: 畦幅120～130cm、畦高15cmが基準です。

2 ラナンキュラス

(1) 播種床の準備: 本圃10a当たり100㎡の播種床を用意します。

(2) 元肥 (播種床) の施用 (100㎡当たり)

苦土石灰10～12kg、石灰窒素6kg、ようりん6kgを施用します。

3 シキミ

秋芽伸長期です。新芽に被害を出さないよう適期防除して下さい。

炭そ病にはペンコゼブ水和剤600倍、アブラムシ類、グンバイムシ類にはスミチオン乳剤1,000倍、サビダニ類にはピラニカEWを散布します。

4 ピットスポラムの生産振興

ピットスポラムは常緑低木で、光沢のある波打った葉がアレンジに用いられ、安定的な需要が見込まれます。

9月中旬から10月が定植適期です。生産・販売に関心のある方はJAうま営農経済部 苅田または指導班 安藤まで連絡して下さい。

<安藤>

【畜産】

暑熱対策の継続、徹底を

家畜の適温域の上限は、乳牛や成豚で20°C、肉牛は25°C、採卵鶏は28°Cですが、9月中旬までは最高気温が適温域を大きく超える日が続きます。

家畜に夏バテのストレスが蓄積していると、たとえ朝晩の気温が涼しくても体力が回復するまで数日間を要します。体熱の放散が不十分だと、日中に上昇した体温が夜間に正常に下がらないことがあります。朝晩に作業者が涼しく感じると夜間に送風機を止めてしまいがちですが、**9月中旬頃までは家畜の様子や舎内の気温等も確認しながら、夜間も送風機を運転して下さい。**

体力回復のためには、食欲不振をなくし、いかに飼料を食い込ませるかが重要になります。栄養成分では、夏場は食塩やミネラル・ビタミン類の消費が多くなるため、飼料への添加が有効です。また、冷たい新鮮な水がいつでも飲める状態にあるか、給水設備のチェックも重要です。早朝の時間を有効に使うことで細やかな飼養管理を行いましょう。

<住吉>